



# ドクター板東の メディカルリサーチ Vol. 40

～故郷も 春の到来 ぽかぽかと～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

春がやってきた。英語なら Spring has come となるだろう。Spring には春やバネ、泉という意味がある。つまり、春の気配に加えて、バネのように心弾む雰囲気や、hot spring (温泉) のように暖かなムードも、感じられるようだ。

## 春の到来コンサート

3月1日、私は音楽仲間と「春の到来コンサート」をコスモホールで開催した(図1)。ピアノ独奏やホルンとの合奏で、春の曲をメドレーで演奏。そして、可愛い子供たちや会場の聴衆皆で「故郷」を歌い春の息吹を感じ音楽を楽しむことができた。

4月1日から新年度が始まり、エコノミージャーナルの発行日でもある。いま本誌を手にとり、読んで頂いているというワケだ。それにしても、3月から4月は寒い冬から暖かい春に移行していく時期で、心もウキウキとなり、身体も調子がよくなる。春めく季節感が溢れる歌が知られて



図1

いる。たとえば、朧月夜、春がきた、春の小川、故郷などが挙げられよう。

それでは、ここでクイズを。この4曲に共通している人物とは誰だろうか?◇少し難しいかもしれないので、ヒントを出そう。歌詞を作った詩人とは?

## 日本人の心を歌に

日本人における心の故郷を詩に詠み込んだのが、高野辰之(たかの たつゆき、1876～1947)先生であった(図2)。氏は国文学者とし

て、東京音楽学校教授を歴任。文部省小学校唱歌教科書編纂委員に委嘱され、作詞委員として数々の唱歌を生み出したのである。

また、文人(小説家・詩人・歌人・俳人・作家・随筆家・コラムニスト)としても活躍。「日本歌謡史」「江戸文学史」「日本演劇史」を次々と完成し、三大著作となった。近代の国文学に大きな功績を残し、東京帝国大学から文学博士の学位や、帝国学士院賞を授与されたのである。

## 高野辰之記念館

高野先生の生誕地は、長野県(中野市大字永江)であり、教鞭を取った永田尋常小学校の跡地に高野辰之記念館がある。過日、私は高野辰之記念館に立ち寄る機会があった。美しい庭園



図2



図3

の中には小川が流れ、玄関の傍らには辰之の銅像が静かに佇んでいる(図3)。紅葉の歌碑なども設置されていた(図4)。

印象深く感じたのは、数多くの著作や業績だけとはな



図4

★「春の小川」における歌詞の変遷

・1912年（オリジナル）

春の小川はさらさら流る。  
岸のすみれやれんげの花に、  
にほひめでたく、色うつくしく  
咲けよ咲けよと、ささやく如く。

・1942年（文語文→口語体）

春の小川は、さらさら行くよ。  
岸のすみれや、れんげの花に、  
すがたやさしく、色うつくしく  
咲いてゐるねと、ささやきながら。

・1947年（現在の歌詞）

春の小川は、さらさら行くよ。  
岸のすみれや、れんげの花に、  
すがたやさしく、色うつくしく  
咲けよ咲けよと、ささやきながら。

★「朧月夜」の歌詞の分析

1 菜の花畠に、入日薄れ、  
見わたす山の端（は）、霞ふかし。  
春風そよふく、空を見れば、  
夕月かかりて、にほひ淡し。  
2 里わの火影（ほかげ）も、森の色も、  
田中の小路をたどる人も、  
蛙（かはづ）のなくねも、かねの音も、  
さながら霞める朧月夜。

表 1

また、「朧月夜」の歌詞をみると、格調高い表現に舌を巻く。詩は4行構成

最初の4月が春の小川、最後の3月が朧月夜であり、いずれも高野先生作詞の曲

歌詞の分析

春の小川は1912年に発表された文部省唱歌である。当初は、作曲作詞の担当者は発表されず、後に明らかとなった。歌詞は、時代背景とともに表1のように変わってきた。

さらに、声を出して読むと、リズムカルで美しい。脚韻を踏み、2番の詩で「もね」音の繰り返し返しが音楽的で心地よく感じられる。

とは、なんとも不思議だ。最近、注目されているのが、日本の歌の英語版だ。『三木の「日本文化ふるさと便」で、グレッグ・アーウィンが、単に歌詞を英語に置き換えず、メロディーと歌詞に込められた「日本の心」をうまく伝えており、評価されている。

たとえば、赤とんぼ (Dragonflies) や浜辺の歌 (Come Walk Along the Shore)、島唄 (Island Song) などが、インターネットでも視聴できる。

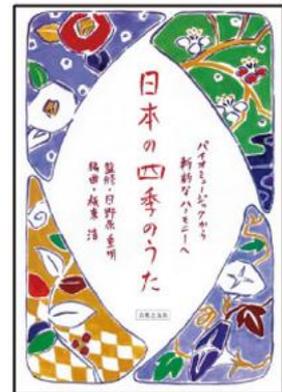


図 6

彼の島唄を聴いていて、思うことがある。言葉も音楽も今や国境はなく、瞬時に世界中を駆けめぐる時代

なか素晴らしい。彼の島唄を聴いていて、思うことがある。言葉も音楽も今や国境はなく、瞬時に世界中を駆けめぐる時代



図 5

★故郷の歌詞と My Country Home の歌詞との比較  
 兎追いしかの山  
 Back in the mountains I knew as a child  
 小鮒釣りしかの川  
 Fish filled the rivers and rabbits ran wild  
 夢は今もめぐりて  
 Memories, I carry these, wherever I may roam  
 忘れがたき故郷  
 I hear it calling me, my country home

表 2

となった。日本語の春と英語の spring という言葉は、同じではない。語感や内在于する意味合いは異なり、伝わる印象も違う。

国際的見地から、今後いかに文学や芸術文化を伝達し融合し進化させていったらよいか。考える時期なのかもしれない。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）